個　人　質　問	議会事務局 処　理　欄	令和８年１１月１２日　１４時０６分　受付
		質　問　順　位　第１４番

武豊町議会議長　石川　よしはる　殿

武豊町議会議員　　谷川　健一郎

一　般　質　問　の　通　告　に　つ　い　て

令和８年第４回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質　問　事　項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
１．公園施設の整備について	【趣旨説明】 公園は、子どもの遊び場、高齢者の憩いの場、健康づくりや地域交流の場であり、災害時には一時的な避難の場ともなる、住民の暮らしにとって身近な公共空間です。公園がどのような姿であるかは、住民がまちに抱く印象や愛着にも直結します。 本町には大小 96 箇所の公園が整備されています。その中でも、令和 6 年に全面供用を開始した武豊中央公園は、大型複合遊具だけでなく、テントシェルターやドッグランなども備え、多くの住民に親しまれる公園となっています。 しかし、多くの公園は供用開始から 30 年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいます。本町はこうした状況を踏まえて武豊町公園施設再編計画を策定し、「維持管理費を抑えつつ、町民がより楽しめる身近な公園を増やす」ことを目指して、公園ごとの役割の明確化と、機能の拡充・特化・縮小による再編を進めています。 一方で、町内の公園では老朽化した施設の補修が追いついていない状況も見られます。熊野池のウッドデッキは長く立入禁止の状態が続いており、住民からは、いつ修繕するのか、それとも撤去するのか、といった声が寄せられています。使えない施設がそのまま置かれている状態は、利用者にとって不便であるだけでなく、安全面でも課題があります。計画が示す方向性と、住民が日々目にする公園の姿との間に隔たりがあれば、計画への信頼は得られません。 また、再編計画は、小さな公園の機能を子どもの遊びや高齢者の休憩などに特化させ、複数の公園で役割を分担するという考え方を示しています。モデル地区のワークショップでは、防災キャンプ体験など、新たな公園の使い方も提案されました。全国では、公園でのバーベキューや防災キャンプなどを社会実験として試行し、地域団体や民間と連携して公園の魅力を高めている事例もあります。 本町の公園を、「管理する公園」から、国が示す「使われ活きる公園」へと転換していくため、以下の点についてお伺いいたします。
	【質問事項】 ①公園施設再編計画の進捗は ②遊具、公園施設の点検の体制は ③本町の公園にあるウッドデッキの現状は ④機能特化型の公園づくりについての現状と今後の考えは